

Course number		U-LAS61 10002 LJ14					
Course title (and course title in English)	環境学 Environmental Studies			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Global Environmental Studies Professor,FUNAKAWA SHINYA Graduate School of Energy Science Professor,KAWANABE HIROSHI Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,TSUNOYAMA YUUICHI Agency for Health, Safety and Environment Professor,HIRAI YASUHIRO Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,YANO JUNYA Center for Ecological Research Professor,NAKANO SHINICHI Disaster Prevention Research Institute Professor,ENOMOTO TAKESHI Graduate School of Agriculture Associate Professor,KOBAYASHI MASARU Graduate School of Agriculture Professor,KITAJIMA KAORU Graduate School of Global Environmental Studies Associate Professor,TRENCHER, Gregory Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,SHOTA HAGIO		
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)	Environmental Sciences		
Language of instruction	Japanese			Old group	Group A		Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・First semester	
Days and periods	Mon.2		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>環境問題は、危急の世界的課題として、広く認識されているが、日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきている。他方、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態を把握した上で、様々な視点で環境問題に対応することは、特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみなさんにとって、必ず求められるものとなるだろう。</p> <p>しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。</p> <p>そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す想いや力などである。</p> <p>そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to 環境学(2)</div>							

環境学(2)

[Course objectives]

環境問題を考えるための基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係、世界の環境問題の実態について俯瞰的に理解する。また、環境問題に対応するための思考力や判断、行動につながる視点として、環境問題解決に向けたアプローチや実践例を理解する。

[Course schedule and contents]

講義順序は都合により前後することがある。年度当初の予定は初回講義時に連絡する。

1. 環境問題を俯瞰する

環境問題の全体像、地球と地域からみた環境問題の構造（2回・平井康宏）

2. 「地球・自然・生態」について学ぶ

【1】自然の構造と仕組み、気候変動（2回・榎本剛）

【2】海・湖と環境、水圏化学（1回・中野伸一）

3. 「人間の身体活動と環境」について学ぶ

人体と身体活動の環境適応とその諸問題、地球から宇宙まで（1回・萩生翔大）

4. 「技術・ハード面」からのアプローチ・実践例を学ぶ

【1】エネルギー資源、エネルギー利用（2回・川那辺洋）

【2】農業生産と環境（1回・小林優）

【3】リスク、放射線と人間・環境（1回・角山雄一）

5. アジアやアフリカ地域における環境問題を学ぶ

【1】アジアやアフリカ地域における一次生産をめぐる環境問題（1回・舟川晋也）

【2】アジア・アフリカ地域での森林消失の駆動要因と対策（1回・北島薫）

6. 環境問題解決に向けた環境政策や実践例を学ぶ

【1】脱炭素と持続可能性の推進に向けた政策とイノベーション（1回・Gregory Trencher）

【2】大学の環境管理、環境教育、ライフスタイル、実践者から学ぶ（1回・矢野順也）

7. フィードバック（1回）

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。14回の小テスト・レポートの平均点を成績とする。未提出の小テスト・レポートはゼロ点として扱う。小テスト・レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。

[Textbooks]

京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-18048 C 3040

[References, etc.]

（References, etc.）

適宜、各講義にて紹介する。

Continue to 環境学(3)

環境学(3)

[Study outside of class (preparation and review)]

授業時間内での理解と論考を行うことを基本としつつ、提示した参考書による復習を推奨する。

[Other information (office hours, etc.)]

この講義は、関係分野の本学教員の協力を得て、本学の環境安全保健機構環境管理部門が文系・理系学生の環境教育の推進のために開講している。